

# 人権さんだ

8月号

令和5年(2023)

No.533

伝えておきたい  
わたし  
~私たちの思い~

《問い合わせ》  
共生社会部福祉共生室人権共生推進課  
TEL: 559-5148 FAX: 563-7776  
E-mail: jinken\_u@city.sanda.lg.jp



## 平和を考える市民のつどい

### ◆プログラム:

「伝えておきたい~さわやか三田の語り部たち~」  
高畑幸子さんの講話  
平和の歌 三田少年少女合唱団 エストニアラジオ放送少女合唱団  
「ぼくは国民学校1年生」 岸田達男さんの講話

◆開催場所: 三田市総合福祉保健センター(多目的ホール)

◆日 時: 8月6日(日) 13時30分~16時

◆問い合わせ: 平和を考える市民のつどい実行委員会  
(事務局: 人権共生推進課)  
TEL: 559-5148 FAX: 563-7776

今年、昭和20(1945)年の終戦から78年になります。この間、私たちは戦争の悲惨さを忘れることなく、平和の尊さを語り継ぎ、次世代につながる活動を続けてきました。しかし、世界では今でも戦争が行われている現状もあり、平和への取り組みを更に積極的に推し進めなければならぬ状況です。

今号では、高齢者の戦争体験談を聞き取り、伝えていく取り組みを通して、平和の重みについて考えていきます。

UD FONT

見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。

# 伝えておきたい

私たちがの思い

三田市内にある介護事業所「NPO法人さわやか三田」では、デイサービスなどを利用して100歳から107歳までの皆さんから若かった頃の話を聞き、ホームページに連載してました。そして昨年、その内容を1冊の冊子にまとめました。タイトルは「伝えておきたい 私たちが若かった頃の話しさわやかかの語り部たち」で、全29話の中には戦争体験談も多く収められています。

太平洋戦争の真ただ中、当時子どもや若い人たちが何を思い、どう生きてきたのかを、ご本人の言葉で語っています。今号では、その中から、「助けてあげたかった」という一文を掲載します。

## 助けてあげたかった

(さちこさん 1924年生まれ)

神戸でえらい空襲に遭ってなあ。それもう、ひどかった。防空壕にも入ったけど、あんなもん役にたちますかいな。

じきに火がついて、外に出たら、あっちこち火の海や。

それでみんな逃げよったときに、四つくらい女の子が

「おかあさん」と泣いてたんですわ。

見たら、母親やろうな、モンペはいた若い女の人が、抱っこひもで

赤ちゃんをこう胸にくくりつけたまま倒れてた。

顔を撃たれてなあ…もうな、顔があらへんねんわ。

赤ちゃんもな、死んでたんかもな。

せやけど四つくらい女の子が、母親の手をにぎってな。

「おかあさん、おかあさん」て必死で呼んでるねん。

「おかあさん、おかあさん」て。

助けてあげたかった。ほんまに助けてあげたかった。

でももう周りは火の海や。その女の人だけと違う、あっちもこっちも死

体だらけや。やけどした人やら倒れとる人やら。うちかて命かかっとる。

みんな見えて見ぬふりで通り過ぎた。誰ひとり、女の子に声をかけてやらへ

んかった。

なんとか逃げのびてからも、それが気になってたんやろなあ。

誰だったか男の人が、「子ども一人だけ生き延びても苦労するだけや。

あのまま親と逝かせてやったほうがええんや」って言うたんよ。

うつむいて、みんなにそう言い聞かせてた。それしか、しょうがなかった。

ほんでもなあ。忘れられへんわ。あれから七十何年経った今でもな。

あの子の「おかあさん」いう声が耳に残ってる。

まだ小さい、小さい女の子やったんよ。

戦争を経験した人たちは高齢になり年々少なくなっています。それと共に社会の関心も薄くなり風化しようとしています。またネット社会に生きる今の若者たちにどう伝えていくのか、戸惑うこともあります。

時折あちこちで祖父母、曾祖父母から聞いた話を語る語り部二世、三世の活動を聞きます。三田市でも語り継ぐ活動が積極的に進められ、私たちのまち三田が、ずっと平和で明るいまちであってほしいと願います。



「伝えておきたい 私たちが若かった頃の話しさわやかかの語り部たち」の内容は、「さわやか三田」のホームページでご覧いただけます。



この冊子は三田市立図書館で借りることができます。

# 若い世代からの発信



関西学院大学  
関西学院大学  
佐野匠さん

「NPO 法人さわやか三田」の冊子「伝えておきたい 私たちが若かった頃の話」さわやかな語り部たち」を読んで、この取り組みに関心をもった大学生に出会いました。関西学院大学の三田キャンパスに通う佐野匠さんと飯田勇希さんです。二人は高齢者向けの「スマホ教室」で高齢者の方と交流したのをきっかけにこの冊子を知り、さっそく、実際に高齢者の方の話を聞こうと行動を起こしました。

二人は「さわやか三田」を会場として高齢者から直接話を聞く場を企画し、若い世代に呼びかけました。当日参加した人たちは、実際の戦争の話を初めて聞いた人も多く、大きな衝撃を受けたと言います。  
後日、佐野さんからお話を伺いました。佐野さんは、今の若者がSNSを中心に世界を広げていることは素晴らしいが、自分が興味のあることだけに偏りが過ぎる

危険性を感じています。そこで戦争や先人の生き方などについて、自ら感じたことを同じ世代の人たちに積極的に発信していきたいと思っています。その際に、高齢者の人から聞いた貴重な体験を、自分自身の中で吸収して、それをかみ砕いて周りの人に伝えていくことが大事だと考えました。飯田さんも、長崎の爆心地を訪れるなど自分なりの行動を始めています。  
戦争体験者の高齢化が進む中、後世に語り継ぐ若い世代の発信がこれからの大きな力になるのではないかと感じました。

## 編集後記



今号では、三田市在住の戦争体験者の方のお話や三田市内で学ぶ若い人たちの平和を願う取り組みを紹介しました。戦争や平和の話は遠い外国の話ではありません。私たちは身近な人と平和について考え、思いを語り合うことにより、戦争被害の現実や平和な社会がいかに大切かということがわかるのではないのでしょうか。  
三田でも、平和への思いを次世代へ語り継ぐ取り組みを更に深め、平和で暮らしやすい三田を作っていくことが大切です。

三田市人権を考える会主催 **今年の**

## 三田幸せプロジェクト 日時：8月20日(日) 10時～12時30分

### ①高齢者の人権について考える

認知症について、正しく理解し行動につなげていこう

(三田市社会福祉協議会 三田市地域包括支援センター 認知症地域支援推進員)

寺坂 梨沙さん

三田市総合福祉保健センター 1階 多目的ホール

### ②子どもの人権について考える

地域ぐるみで子どもの居場所づくりを～子ども食堂の取り組みを通して～

(さんだ子どもまんなかネット代表)

大東 真弓さん

三田市商工会館 5階 多目的ホール

### ③多文化共生について考える

日本語学習と異文化理解の旅～ネパール人青年から見た日本～

ニツチェル・サラマさん

まちづくり協働センター 6階多目的ホール (三田駅前キッピーモール)

◆申込方法： <https://logoform.jp/form/hyogo-sanda/311021> または二次元コードを参照

電話・FAX でのお申込み先は下記問い合わせ先参照

◆申込締切： 8月10日(木)

◆その他： 手話通訳、要約筆記、一時保育の申し込みは8月10日(木)までをお願いします。

《問い合わせ》主催：三田市人権を考える会(事務局：人権共生推進課) TEL：559-5148 FAX：563-7776

後援：三田市・三田市教育委員会



## 令和4年度 人権標語・ポスター受賞作品



ぼかぼか三田  
松本結登さん  
(前年度)

ほつとする  
あなたの笑顔  
見るだけで  
親和幼稚園教諭  
近藤早紀さん

## くらしの人権相談

TEL 559-5062 FAX 559-5063  
月曜～金曜 9時～17時(※祝日・年末年始を除く)

### 専門相談員による性的マイノリティ特設電話相談(予約)

TEL 559-5062 FAX 559-5063  
月曜～金曜 9時～17時(※祝日・年末年始を除く)  
※専門相談員との相談日は予約後に調整

### 人権擁護委員による定例人権相談(予約)

TEL 559-5148 FAX 563-7776  
《次回相談日》8月24日(木) 13時～16時

「言葉の力」



けやき台小学校6年(前年度)

田中 陽菜 さん

伝え合う心

狭間中学校教職員

宮本 昌代さん

肢体不自由の子どもの  
出会い

私は13年前に赴任した特別支援学校で初めて肢体不自由の子と関わりました。小規模の学校でしたが、ほとんどの子どもたちが車いすを利用しており、重度の障害のある子どももいました。授業と言っても、何をどう教えたらよいのか、とても戸惑いました。

その学校では毎日、子どもと教師や介助員がマンツーマンで、マットの上で活動する「からだ」という動作学習の時間がありました。

小さな動きに込められた  
思い

動作学習では、体を動かそうとするその子の心を育むことを大切にします。私が動かすのではなく、その子の動かしたいという気持ちを受け止めて、一緒に動かせます。そして、子どもは新たな「できた」を経験し、自己肯定感が高まります。そのため、動作学習の成果は、身体運動の改善だけでなく、行動や対人関係の変化、情緒の安定などにもつながります。新任教員の研修で「動作法」についても学びましたが、経験の浅

伝え合う心を大切に

い私が見よう見まねでやっても、子どもは応じてくれませんでした。時間をかけて、目を見て声をかけたり、手遊びをしたり、体を使ってやりとりをしていく中で、次第に打ち解けていきました。麻痺などで体が硬くなってる子、力が入りにくい子、側弯症のある子など、それぞれ課題は違います。一人ひとりの課題に応じて目標を設定し、一緒に体を動かしながら思いを伝えました。とてもゆっくりで小さな子どもの動きの中に、「一緒にがんばるぞ」という意気込みが感じられたときには、言葉にできないほどの感動を覚えました。そして、「できた!」と思ったときに互いの視線が合い、喜びあいました。私の心の中に深く刻まれた瞬間でした。

子どもたちは、「からだ」の学習を通して私にいろんなことを伝えてくれました。視線や表情、身体の動きなど、ことば以外のもの、あらゆる情報を発信していたのです。私たちの生きる社会には、ことばでの表現が難しい人もたくさん

「こどもの人権相談強化週間」

【日時】 8月23日(水)～29日(火)  
8時30分～19時まで  
※土曜日・日曜日は10時～17時まで  
通常は平日8時30分～17時15分まで  
【電話】 0120-007-110 (全国共通・無料)  
【担当者】 人権擁護委員、法務局職員  
【内容】 学校における「いじめ」、体罰、児童虐待など  
こどもをめぐる様々な人権問題  
※相談は無料で、秘密は厳守します。  
(問い合わせ先) 神戸地方方法務局人権擁護課  
電話：078-392-1821 (代表)



います。また、ことばが使えても、うまく表現できない人も少なくありません。実は私も苦手です。だからこそ、「わかってほしい」「わかりたい」という気持ちを大切にしたいと思います。これからも色々な手段を使って互いの気持ちを理解しあえるよう、日々の教育活動を実践していきたいと思えます。